

オダマキ *Epitonium auritum* (Sowerby II)

【選定理由】

本種は外洋に面した内湾の潮下帯砂底にすむ。県内では内湾域潮下帯の環境は上部の干潟の破壊や浚渫、貧酸素水塊の発生、水質汚濁などで急速に悪化していて、この生息帯の貝類相が著しく単純化している。本種は三河湾口部、伊勢湾知多半島沖などの潮通しの良い、有機質の少ない砂底の限られた場所で生貝が採集されているが、個体数は非常に少ない(木村, 1996; 木村, 2000)。その後の調査でも、上述したような生息環境自体が県内にはほとんど存在せず、絶滅の可能性が高い種であると評価された。



南知多町内海沖(ドレッジ水深 2-5 m), 2000年7月28日,  
木村昭一採集

【形態】

殻長約 10 mm の高い塔形で、殻は淡褐色で 3 本の広い褐色帯がある。殻表には不規則な縦肋があり光沢がある。蓋は革質で褐色。

【分布の概要】

【県内の分布】

知多半島南部伊勢湾側から三河湾湾口部にかけて生息海域(潮下帯)があるが、その範囲は非常に狭くかつ個体数も非常に少ない。

【世界及び国内の分布】

日本、西太平洋、国内では房総半島・佐渡島以南～九州まで分布する(木村, 2016)。

【生息地の環境／生態的特性】

【選定理由】の項参照。

【現在の生息状況／減少の要因】

上述したように現在でも限られた場所で生貝が少数採集されているが、生息場所、個体数とも明らかに減少している。

【保全上の留意点】

上述したように県内潮下帯の環境を保全する。本種は有機質の少ない透水性の高い砂底で生息が確認されているので、特に底質の泥質化に注意を要する。

【引用文献】

木村昭一, 1996. ドレッジによって採集された日間賀島南部海域の底生動物. 研究彙報(第 35 報): 3-19. 全国高等学校水産教育研究会.

木村昭一, 2000. 伊勢湾・三河湾でドレッジによって採集された貝類(予報). かきつばた, (26): 18-20.

木村昭一, 2012. オダマキ, p. 62.in: 日本ベントス学会(編) 干潟の絶滅危惧動物図鑑 - 海岸ベントスのレッドデータブック, 285pp. 東海大学出版会, 秦野.

(木村昭一)